



感染対策の上実施した会場の模様

医療研究会 (オンライン併用)

# 予防できる子宮頸がん

～世界に取り残される日本～



横山 正俊 先生

佐賀大学医学部産科婦人科教授の横山先生による「予防できる子宮頸がん」という演題をオンラインで拝聴した。

3月26日(金)佐賀市アバンセにて、横山正俊先生(佐賀大学医学部産科婦人科教授)を講師に、医療研究会「予防できる子宮頸がん」を世界に取り残される日本」がWebを併用して開催し、アバンセにて4医療機関から4人、Webにて26医療機関から36人の参加がありました。以下、参加者からの報告です。

違うことに驚き、また自分自身の子宮頸がんワクチンに対する知識のなさを痛感した。講演の内容は以下のとおりです。

子宮頸がんの原因の約65%はHPV16型と18型であり、20歳台前半には約27%の女性に存在している。HPVに感染している。感染者の90%は自然消失するが、持続感染が原因で感染者の1%が子宮頸がんを発症する。性行動が活発になる前の中学高校時代に頸がんワクチンを接種するとHPV感染を予防でき、子宮頸がん発症をかなり予防できる。ここからは私見も入りますが、国内ではワクチンによる副反応に対しての大手のメディアが過剰報道?したこともあり、ワクチン接種プログラム対象女子の接種率が0.3%と悲惨な状況で、もつと厚生労働省、自治体はワクチンと副反応との正確な因果関係を声を大にして国民に伝えていただき、より多くの女性に安心してワクチン接種を受けていただきたいと思えます。

子宮頸がんワクチンの普及と、子宮頸がん検診受診率を上げることで、オーストラリアのように子宮頸がん撲滅を目指すという内容も含まれていました。子宮頸がん検診も細胞診とHPVを両方検査し、両方とも陰性なら検診間隔を3年に延長できるとのことでした。また佐賀県では、2019年から30歳以上44歳未満のHPV検査を無料化して、検診受診率を上げているということです。子宮頸がんを予防できるワクチンの必要性、安全性を国、自治体がもっと周知する必要があります。私自身もクリニック内で患者さんやスタッフに伝えていく必要があると感じました。(佐賀市 小地 健太)

【参加者アンケートより】

- ・子宮頸がんワクチンの本邦における経緯と、世界と比較した上で現状が非常に分かりました。ありがとうございます。(医師)
- ・HPVワクチンの事件は本当に日本の恥です。本邦に分かりやすく、ためになりました。参加して良かったです。(看護職)



手前に歯科技工士会の方々、奥左より新井副会長、千葉・藤瀬・梅津各常任理事

## 佐賀県歯科技工士会と懇談

～歯科技工士の労働環境等について意見交換～

4月10日(土)、多都市の「あいはれつと」会議室にて佐賀県歯科技工士会と懇談を行った。歯科技工士会からは、樋口寿郎会長、本村公夫専務、丸山寛監事、佐賀協会からは、私と梅津・千葉・藤瀬各常任理事、事務局が参加した。はじめに、歯科技工士の卒後早期離職の状況や、養成施設の定員割れにより閉校に至

っている問題に触れ、その原因や対策について意見交換を行った。近年歯科技工士は、全国的に見ても卒後5年で7割が離職に至っており、現在50歳以上の技工士が全体の半数を占めるなど、このままでは、近い将来なり手不足のため患者にしまわ寄せが来るとの認識で一致した。早期離職の原因としては、技工物の製作に要する費用の「7対3」の大士告知ルール(歯科技工士の技術料が7割、歯科医師の管理料が3割)が厳守されず市場価格に委ねられ、収入を得るには長時間労働を強いられることも要因の1つで、対策として「技工士の直接請求制度の検討も考えた」との意見も出た。(副会長 新井 良二)

協会会員数
医科 653人
歯科 332人
合計 985人
(3月31日現在)

### 主な記事

- ・ 歯科研究会「医科健診結果など検査数値の見方」.....2面
- ・ 歯科用貴金属価格 7月から変わらざる.....2面
- ・ 佐賀型エール支援金の申請はお済みですか?.....3面
- ・ 共済部だより「休業保障申込締切迫る!」.....5面
- ・ 経営財務「インボイス制度の概要と医療機関に与える影響」.....5面

### 「保険でより良い歯科医療を」署名のご協力をお願いします

【お願い内容】

- お金の心配をせず、安心して歯科医療が受けられるよう、窓口負担割合を下げてください
- 健康保険で受けられる歯科治療の範囲を広げてください
- 歯科医療の充実に必要な国の予算を増やしてください

署名用紙を同封しています。ご協力をお願いします。

(みやまき町 今村 洋一)

昨年、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となつた春の選抜高等学校野球大会は、今年は無事に開催され、大分県代表の明豊高校が大分県勢として54年ぶりに決勝戦に進出しました。しかし、決勝戦を含めて、大会を通じて全試合無失策という素晴らしい内容でした。▼また明豊高校に限らず、今年の大会は、背番号が2桁の選手が活躍した大会とも評されました。これは日ごろの練習のたまものであり、レギュラーでない選手、ややもするもモチベーションが下がってしまっている選手もいるのではないかという、私の素人考えを記事に裏切ってくれる出来事でした。また、水泳では、2年前に急性リンパ性白血病と診断された、当時は東京五輪への出場が絶望視されていた池江璃花子選手が見事復活し、東京五輪のリレーの選手に内定しました。▼前記のごとく、私たちの努力には、その日ごろの努力を实らせた人々がたくさんいますが、私たちはどうしても、その光の部分にしか目がいかず、隠れた努力を忘れがちです。私たちの努力は必ずしも報われるわけはありませんが、成功した人に努力しなかつた人はいませんか。私も少しは見習いたい今日このごろです(とはいつても全くできていませんが、皆さんはいかがでしょうか?)